# 準優勝!! ジュニアサッカー大会

「熊本市民スポーツフェスタ冬季大会五人制サッカー大会」が、平成二十三年十二月十七日、冷え込んだ水前寺競技場で行われた。

「田迎体協ジュニアチーム」は、田迎体協が、田迎小学校を通して募集し、練習や大会当日の世話をした。

一年生（女子一名、男子三名）二年生（男子四名）三年生（女子一名、男子二名）の十一名の申し込みがあった。サッカークラブで活動している児童と全くの初心者との三年生以下の男女でチームを作った。なお、大会への女子の参加は田迎体協ジュニアチームだけだった。

大会には、五チームの参加があった「初心者の部」に始めて参加し、変則リーグで試合をした。

十一名全員が交代で出場し、三対〇で勝、三対一で勝、一対三で敗の二勝一敗の結果、準優勝だった。

特に、三年生は、リーダーの意識を持って活躍し得点した。三年生女子のすばらしい得点もあった。

保護者の声援を受けて緑の芝の上で力を出し切って、全員で勝ち取った準優勝だった。

表彰式後、ごほうびのお菓子をもらい記念の写真撮影し、来年も頑張ろうと約束し、充実した半日だった。

（田迎校区体育協会長記）

## サッカー大会に参加して

三年　宮本まさたけ

はじめはなかなか点が入らなかったけど、後からだんだん調子が上がりました。

三年生の三人で「ナイス」とか「ボールにいって」とかみんなに声かけをしました。三年生が一点ずつ決めて勝った試合もあってうれしかったです。

とても寒い日だったけど、試合が終わった時にはみんな汗をかいていました。石原先生と奥さんは、少しだけきびしかったけど、表彰状をもらえてよかったです。

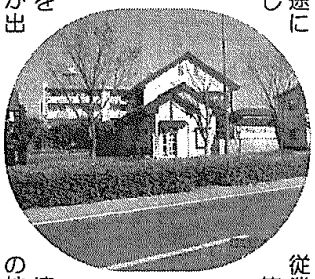
# 田迎の史跡めぐり

シリーズ㉖

## 東肥航空機会社跡

支那事変に続く大東亜戦争遂行には、多大の犠牲が払われた。国家統制の強化と共に中小企業経営は頗る困難となり、転廃業による生活の途に迷う人々は全国的に増加した。曾て「二・二六事件」に関与して軍籍を離れていた湯川康平（旧姓清原）氏は、これらの人達を糾合し危機を乗り切るべく精神運動を展開した。

そして、田迎堂山の約一万坪の地に、経済維新を目指して東肥航空機会社が出現したのは昭和十八年十一月三日のことである。世の常の営利会社とは赴きを異にし精神鍛錬は大きな眼目の一つであって、会社入り口近くには天照大神を祀る百畳敷きの東肥道場が設けられていた。また五百坪建ての三棟の工場には、第一、第二、第三戦場の呼び名が付けられて決戦下の気魄が窺われ、その他、大小の八、九棟の施設があった。共同精神旺盛な従業員の外、大江、第一、阿蘇高等女学校などの女子挺身隊員も交替で加わり、航空機部品の懸命であったが、昭和二十年七月、米軍の空襲により道場、第二工場はじめ敷地内にあった宗像政知事の旧宅や付近の民家も多数が焼失した。戦後、会社の残余施設の一部は取り壊され、或いは大江高等女学校の校舎その他に転用された。尚東肥航空機会社の社員として地元から十二、三名の方が働いていたとのことである。



（たむかえ散歩より）

（会社跡地は出仲間郵便局の北側付近である）

# 豪快に新春。恒例のどんどや

一月九日(月)と一月十四日(土)にかけて田迎校区の各町内のどんどやがあり、豪快に燃えあがる炎を見ながら一年間の無病息災などを祈った。

一月九日(月)は、二町内と三町内のどんどやが行われた。二町内は出仲間公園にて、午前十時にやぐらに点火する前に、子ども会長の挨拶のあと、高さ10米の青竹で作られたやぐらに、子どもの代表によって点火された。参加者が持ち寄った正月飾りや手習いの習字紙が一緒に白煙を上げて、パチパチと竹が割れる音が響いて豪快に燃えあがった。周囲には子ども会が用意したぜんざいが参加者に振舞われた。縁起物であるのでみんな喜んで食べていた。

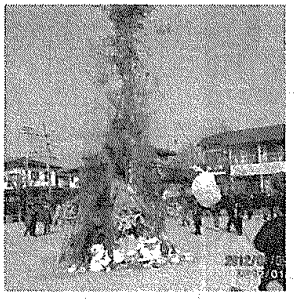
なお、三町内は砂入公園にて、どんどやを行い、ぜんざい会や、ぶた汁やバーベキュー、かっぽ酒を用意して、参加者に振舞っていた。

一月十四日(土)は、一・五町内のどんどやが田迎名ノ内公園にて行われた。朝早くから消防団がトラックで竹を運び、公園中央にやぐらを組んで作り、十時から、米村自治会長の挨拶のあと、代表の子ども三名によって点火された。

点火されたやぐらは白煙を上げて燃え上がった。竹の割れる音が大きく響き渡る中を参加者は自分の体に煙をあてたりして無病息災を祈っていた。テントの中ではぜんざいが振舞われていた。

炎が小さくなると参加者は周囲をとり囲み、竹ざおの先に挟んだ餅を焼いたり背中を火にかざして暖を取ったりして楽しんでいた。

どの町内も、地域の絆を感じたどんどやであった。



# 地域の絆をつくる 親子三代もちつき

一月八日(日)出仲間公民館前において二町内の親子三代もちつきが行われた。会場には自治会役員、老人会、女性の会の役員が多数参集して、四基のせいろで蒸したもち米を石うす三基で餅をついていた。もちつきは自治会役員と老人会の役員と保護者が行い、子ども達も、もちつきを行っていた。大人の方より上手についている子どももいた。ただ、若い人が少ないと思っていたら、同じ日に消防の出初式があったための様である。

つき上った餅は直ちに公民館内に運ばれて、子ども会の子ども達の手によってあんこ餅、紅白の餅と分けて、ビニール袋に入れる作業をしていた。参加者や子ども達には紅白の餅が配布されていた。このもちつき大会は二十数年は続いているとの事であった。つき上った餅は明日のどんどやのぜんざい会に使われるとの事である。今回のもちつき大会には百五十名以上の住民が参加していた様である。

## 編集後記

◎今年も「れいすい」をよろしくお願いします。

◎今年もインフルエンザが流行しています。体調には充分注意してください。

◎先日、百才の方に話を聞きました。食べ物は肉が大好きとの事です。また、自分の事は自分でするとの事です。参考にしましょう。